

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02055

研究課題名（和文）Subscription Video On Demand in Japan and East Asia: its impact on national and transnational production and distribution of media contents

研究課題名（英文）Subscription Video On Demand in Japan and East Asia: its impact on national and transnational production and distribution of media contents

研究代表者

大山 真司（OYAMA, SHINJI）

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：00778946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：このプロジェクトの結果、SVODがアジアの異なる諸国や地域でどのように受容されているかをメディア言説の分析を通じて明らかにすることができた。また、アジアと英米豪のSVOD研究者とのネットワークを形成することにも成功した。さらに、複数国・地域のカタログデータをコンピューターを使用した新しい方法論を開発し、質的研究のみでは難しい新たな文化的地理学を描くことができた。加えて、Netflixと協働して日本のドラマを分析するレポートを作成し、メディア企業と大学研究者の新たな協働の形を示すことができた。複数の査読付き論文を国際的なトップジャーナルに発表し、研究成果の発信を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、SVODがアジア諸国でどう受容され、メディア産業にどのような影響を与えているかを明らかにすることで、メディア研究に新たな視点を提供した。特に、複数国・地域のカタログデータをコンピューターを用いて分析する新しい方法論を開発し、質的研究のみでは難しい文化的地理学を描くことに成功した。この研究は、国際的な学術ネットワークの構築にも寄与した。また、Netflixと協働して日本のドラマを分析するレポートを作成し、メディア企業と大学研究者の新たな協働の形を示すことができた。これにより、学術界だけでなく実際のメディア政策や産業戦略にも有用な指針を提供し、社会的意義も高いと考える。

研究成果の概要（英文）：As a result of this project, we were able to clarify how SVOD is received in different countries and regions in Asia through the analysis of media discourse. Additionally, we succeeded in forming a network of SVOD researchers from Asia, the UK, the US, and Australia. Furthermore, by developing new methodologies using computer analysis of catalog data from multiple countries and regions, we were able to map new cultural geographies that are difficult to achieve with qualitative research alone. In addition, we collaborated with Netflix to create a report analyzing Japanese dramas, demonstrating a new form of collaboration between media companies and academic researchers. We published several peer-reviewed papers in top international journals, disseminating our research findings.

研究分野：メディア研究

キーワード：メディア研究 メディア産業研究 ストリーミングメディア研究 インターネット研究 文化産業研究

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2010年代初頭から、NetflixやAmazon Prime Videoなどの定額制動画配信サービス(SVOD)が急速に普及し、従来のテレビ産業に大きな変革をもたらした。これらのサービスは、初めは既存のテレビコンテンツをインターネット上で配信するプラットフォームとして始まったが、次第にオリジナルコンテンツの制作に乗り出し、世界中で多くの視聴者を獲得するようになった。このような発展は、テレビ番組の生産、流通、視聴の方法に大きな影響を与え、テレビの概念そのものを再定義する動きを引き起こした。しかし、これまでのSVODに関する研究は主に北米やヨーロッパ、オーストラリアに集中しており、日本や東アジアにおけるSVODの影響についての詳細な研究はほとんど行われていない。したがって、日本や東アジアにおけるメディア産業がSVODの影響を受け、どのように変化しているのかを明らかにする必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本および東アジアにおけるSVODの普及が、テレビコンテンツの生産、配信、消費の各段階においてどのような変革をもたらしているかを明らかにすることである。具体的には、SVODサービスがメディア産業に与える影響を評価し、それがテレビ番組の制作と配信の手法、視聴者の消費行動、および文化的アイデンティティの形成にどのように影響を与えているかを調査する。また、本研究は、日本や東アジアのメディア産業の現状を国際的な視点から分析し、グローバルなメディア環境における地域特有の動向を明らかにすることを旨とする。これにより、従来のテレビ産業と新興のSVODサービスとの相互作用を理解し、今後のメディア産業の発展に貢献することを目指す。

### 3. 研究の方法

本研究では、二つの主要なデータ収集方法を用いる。まず、メディア市場の発展状況を把握するために、雑誌記事、新聞記事、業界報告書、政府の報告書などの二次データを収集・分析する。これにより、SVOD市場の全体像と各国の市場特性を明らかにする。次に、コンテンツ制作会社やテレビ局の関係者へのインタビューおよびフォーカスグループインタビューを実施し、一次データを収集する。対象者には、脚本家、プロデューサー、PRマネージャーなどの業界専門家が含まれ、SVODサービスがコンテンツの生産と流通にどのような影響を与えているかを具体的に把握する。これらのデータを、理論的枠組みを用いて分析し、SVODの影響を総合的に評価する。研究期間は2019年度から2023年度までの5年間とし、各年度ごとにデータ収集と分析、理論の発展を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) メディア生態系の変容とSVODを巡るメディア言説の分析

SVODの普及に伴い、東アジアにおけるメディア生態系あるいは特にグローバルなSVODに関する言説が、どのように変容したかを、メディア表象を通じて分析した。後述するようにまた、グローバルインターネットTVコンソーシウムに参加し、特にNetflixの世界20ヶ国以上における状況を詳細に記述する知識リソースの構築に貢献した。こうした基本的な知識をベースにして、各国の固有性に根ざしたローカル化の状況を検討し、地域的なメディア環境と同時にグローバルSVODがもたらすローカルなメディア産業に対する影響を様々な議論する言説の様相を明らかにした。一例をあげれば、日本ではNetflixが進出当初「黒船」と表現されたように、ローカルなメディア業界にとっての脅威として受け止められたが、次第に日本コンテンツのグローバルな発信プラットフォームとしての機会であると、言説がほぼ正反対に変容した。こうした異なる受容分析の成果をまとめ日英両語で出版した(Tse 2020)(大山 2021)。

#### (2) 国際的な研究ネットワークの構築

本プロジェクトを通じて、日本、中国、韓国、台湾などの研究者と国際的なネットワークを構築した。2019年には立命館大学で国際ワークショップを開催し、各国から10名以上の研究者が参加した。またグローバルインターネットTVコンソーシウムに参加し、世界中のストリーム研究に貢献した<sup>1</sup>。基調講演者であるRamon Lobato氏の主著である「Netflix Nations: The geography of Digital Distribution」は現在翻訳作業を進めている。加えてTSEはテレビ研究の世界的権威であるAmanda Lotz氏のワークショップに参加し、そこでの報告を元にInternational Journal of Cultural Studiesの特集に寄稿し、世界的な研究者のネットワークの中でプロフィールを確立している(Tse 2023)。国内外での学会やシンポジウムでの報告、共著で準備中の日本でのNetflix受容を研究した論文をはじめとして、ストーリーミングに関する研究発信を引き続き日英両語で行い、多くの研究者とのネットワークを作っている。

#### (3) データの数量分析と新知見の提供

<sup>1</sup> <https://www.global-internet-tv.com>

SVOD のコンテンツは膨大であり、テレビ研究とは異なる研究方法論が求められる。東アジアにおける SVOD 上で視聴可能な全てのコンテンツ = カタログを比較し、配信企業がアジア地域のコンテンツ流通に果たす役割を分析するという局面では大きな成果をあげた。情報工学の研究者との共著で、アジア 5 ヶ国・地域の Netflix, Amazon Prime 等大手配信企業のカタログデータ 6 ヶ月間のデータに基づいて、複数の統計的および質的分析を行い、地域間のコンテンツの重複と、視聴可能期間に焦点を当てることで、従来の質的なテキスト分析では不可視であったメディア地理学を描くことに成功した。国際的論文に投稿済みである。(Remy, Tse and Roth, submitted)

#### ( 4 ) 教育と社会への貢献

本研究を通じて得られた知見は、学術的な領域にとどまらず、メディア政策や産業戦略にも有用な指針を提供した。特に Netflix Japan 社の依頼で、日本のテレビドラマに関するレポートをまとめる作業を通じて、SVOD メディア研究における新たなアプローチと方法論を議論し、グローバルなメディア企業と大学研究者の新たな協働の姿を提示することが出来た。(Oyama and Tse, 2023)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 SHINJI OYAMA	4. 巻 -
2. 論文標題 In the Closet: Japanese Creative Industries and their Reluctance to Forge Global and Transnational Linkages in ASEAN and East Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ERIA Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tse Yu-Kei	4. 巻 27
2. 論文標題 'Terebi banare': Historicising internet-distributed television and the 'departure from television' in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 99 ~ 118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/13678779231197698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Oyama Shinji	4. 巻 -
2. 論文標題 The last paradise for creative workers? The case of Shueisha and Weekly Sh?nen Jump	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Cultural Policy	6. 最初と最後の頁 1 ~ 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10286632.2023.2292719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tse Yu-Kei	4. 巻 59
2. 論文標題 Black Ships? Locating Netflix in Taiwan and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JCMS: Journal of Cinema and Media Studies	6. 最初と最後の頁 143 ~ 148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/cj.2020.0036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 大山真司
2. 発表標題 Creative Industres in Japan
3. 学会等名 カルチュラルスタディーズ学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山真司
2. 発表標題 Interrogating Professional and Disciplinary Boundaries in Media Studies
3. 学会等名 Media Boundaries (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大山真司
2. 発表標題 Reponding to De-centralization and Theorization of Post-media Studies
3. 学会等名 The Present and the Future of Media Studies
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YU-KEI TSE
2. 発表標題 Understanding the impact of the streaming market in East Asia
3. 学会等名 Guest lecture for the Dept. of Journalism and Communication Studies, Fu Jen Catholic University, Taiwan (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YU-KEI TSE
2. 発表標題 What do “watching television” and “terebi banare” mean in Japan in the age of streaming?
3. 学会等名 the Global Streaming Workshop, Queensland University of Technology, Australia (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 YU-KEI TSE
2. 発表標題 Transnational audiences: Concepts and Methods
3. 学会等名 Open lecture for Dept. of Communication, National Chung Cheng University, Taiwan (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shinji Oyama
2. 発表標題 Creative Workers in Japan: Why Nobody talks about Creativity in Japanese Creative Industries
3. 学会等名 Seminar in Media and Communication. Xi'an Jiaotong-Liverpool University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinji Oyama
2. 発表標題 Getting into and getting on: works in Japanese creative industries
3. 学会等名 Asian Cultural Policy Seminars. King's College London (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukei Tse
2. 発表標題 Live piracy: Television and liveness in the age of on-demand
3. 学会等名 The 8th European Communication Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山真司
2. 発表標題 Bringing Media Back Into Postmedia Studies
3. 学会等名 Digital Media, Creativity and Capitalism in the Age of COVID-19 ( 招待講演 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHINJI OYAMA
2. 発表標題 Why do they not talk about creativity in Japanese Creative Industries?
3. 学会等名 Labouring Creativity in the Global Context: Cultural Work in East Asia and Beyond ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHINJI OYAMA and YU-KEI TSE
2. 発表標題 Digital Television and Cultural Geography in East Asia
3. 学会等名 Subscription Video-On-Demand In East Asia: Its Impact On Regional Production And Distribution Of Media Contents ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 YU-KEI TSE
2 . 発表標題 Netflix, datafication, and audience agency
3 . 学会等名 The 7th Meeting of the Research Institute for Media, Communications, Culture, and Society ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 YU-KEI TSE
2 . 発表標題 Streaming television markets as the material basis for “ East Asian sensibilities ” ?
3 . 学会等名 The Annual Conference for Cultural Studies Association in Japan ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yu-kei Tse
2 . 発表標題 Locating audiences in the age of streaming: What have changed, and what have not?
3 . 学会等名 the International Symposium Platforms and Uses, Reviving Qualitative Audience Research for the Streaming Era, the Pre-conference of International Communication Association ( 国際学会 )
4 . 発表年 2024年

1 . 発表者名 Shinji Oyama
2 . 発表標題 Cultural Labour in Japanese Media Industries
3 . 学会等名 Sustainable Futures of Culture Project: International Workshop on Cultural Labour, Doshisha University and King ' s College of London. Kyoto ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年



## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 足立 研幾、板木 雅彦、白戸 圭一、鳥山 純子、南野 泰義編（大山 真司）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 プライマリー国際関係学	

1. 著者名 石田佐恵子・岡井崇之編（大山真司）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 212
3. 書名 基礎ゼミ メディアスタディーズ	

1. 著者名 Shinji Oyama and Yu-kei Tse	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Report prepared for Netflix Japan	5. 総ページ数 24
3. 書名 Navigating the Landscape of Japanese Romance Dramas: Frameworks, Trends, and Recommendations	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	TSE YUKEI  (TSE YU-KEI)  (60828408)	国際基督教大学・教養学部・准教授   (32615)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

## 〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Subscription Video-On-Demand In East Asia: Its Impact On Regional Production And Distribution Of Media Contents	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	Royal Melbourne Institute of Technology			